

特集

PIH から HDP へ —妊娠高血圧症候群 up to date—

企画者のことば

増山 寿*

妊娠高血圧症候群(hypertensive disorders of pregnancy ; HDP)は、母体や新生児の罹病率や死亡率増加につながる周産期管理上非常に重要な疾患です。HDP では、母体は子癇、HELLP 症候群、常位胎盤早期剝離など重篤な疾患を発症しやすく、また胎児発育不全(fetal growth restriction ; FGR)や胎児機能不全を伴いやすいことが知られています。さらに HDP 既往女性は将来メタボリック症候群を、また HDP 母体から生まれた FGR 児も、将来肥満、生活習慣病の発症リスクが高いことが報告されています。

HDP は学説の疾患と呼ばれその病院・病態は長らく不明でしたが、今まさにその病因・病

態の解明が進んでいます。これらの知見に基づき予知・予防法の検討や新しい治療の試みが報告され、さらに定義・臨床分類の改定が予定されているところです。本特集では、HDP について歴史的背景、最近の病態に関する知見、発症予知、母児の管理方法や麻酔、新しい治療法、HDP 母体から出生した児の予後や今後の個別化医療に向けた三世代コホート研究まで、それぞれのテーマのエキスパートの先生方に最新の知見をご執筆いただきました。

この特集には HDP に関する up to date な情報が網羅されています。明日からの日常診療に役立てていただくことができれば幸いです。

* Hisashi Masuyama 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科産科・婦人科学分野(教授)